

会員各位

平成30年度総会報告

深谷市手をつなぐ育成会
会長 梶山 實

新緑の候、会員の皆様にはお元気でお過ごしのこととご推察申し上げます。5月16日に「深谷市手をつなぐ育成会」の定期総会が深谷公民館で開催され、同封の「総会資料」に記載されている内容でご承認いただきましたことをご報告いたします。

毎回のことですが、当会の成り立ちを紹介させて下さい。「深谷市手をつなぐ育成会」（最初の会名は「深谷市手をつなぐ親の会」）はS44/12に設立され、創立48年目を迎えました。

小生が深谷市に引越してきたのはS47/7月で、深谷市には障害者の受け入れ施設が無く、妻沼の「草の実学園」まで通園バスで通っていた。当時の小学校には特別支援学級もなく、就学猶予の状況でした。

何とか深谷市に通所施設を作る運動を始めたのがS47/10深谷市心身障害児（者）育成協議会（現在の肢体不自由児父母の会と手をつなぐ親の会の会員）を立ち上げ、要望書を深谷市に提出しました。S49/4深谷市立たんぽぽ育成園が開園しました。藤沢小学校より先生が派遣され、学校教育が始まり、S54/4全員学校就学で、育成園は閉鎖された。

学校を卒業したが仕事が無く、稲荷町の民家を借り、通所作業を始めながら、深谷市立たんぽぽ育成園の空家に関所を要請してS57/4「深谷市立たんぽぽ作業所」が30名定員で発足した。その後、段階的に50名まで増員され、後に「埼玉のぞみの園」に運営委託された。H27/4市より「埼玉のぞみの園」に経営委託され、「深谷たんぽぽ」と施設名も変わりました。今年で35周年を迎えました。

深谷市手をつなぐ育成会は現在の「深谷たんぽぽ」と共に歩んで来ました。色々な会合で、事ある毎に「子供が二十歳を過ぎたら独立させる」「子の親離れ、親の子離れ」をする努力をして下さいと申し上げてきました。

これからが大変な時期で、親も子も高齢化する避けて通れない道です。ここ数年を見ると「深谷たんぽぽ」にグループホームから通園する方が3割以上と多くなりました。

来年（新元号頃）、大規模グループホーム「春陽の里」が開所されると聞いております。沢山の方々が「地域で共生社会を築いて行く」ことを望みます。

「深谷市障害者基幹相談支援センターうらら」のホームページを見ると、深谷市内に70箇所以上の障害福祉サービス事業所があること、とりわけグループホームは18法人47居住で284人もお住まいをされていることを知り、今年は更なる増加が期待されます。障害者の地域での生活が増々浸透して行くことでしょう。

障がい者の生活や働き方が多様化している時、病気・怪我・事故・第三者補償などに被災されることも多く見られます。こんな時「生活サポート保険」に入っていて良かったと言う声を聞きます。保険は本人だけでなく、保護者や施設の「お守り」として、ご利用をPRしています。GH長さんには未加入の他の施設に働き掛けてください。

今後も「深谷たんぽぽ」や「グループホーム」等を支援しながら、地域で生活できるグループホームへの入所を指導し、親の老後対策、親亡き後の生活や成年後見制度の活用など進めて行きたいと思っております。また、若い障がい児をお持ちの任意団体へ「施設見学など」を通じて交流を深めたいと思っております。ご支援・ご協力を宜しく願います。

皆様からの質問及び相談について、連絡を下さい（048-572-2863 梶山）

以上